

エール交換で勇ましい舞を披露する生徒たち(27日午前8時半ごろ、神原中)



市内中学校で初の春季運動会

声援受け全力プレー

神原中、4年ぶり一般公開

神原中(岡田浩典校長、179人)の春季運動会が27日、同校グラウンドで行われた。宇部市内の中学校で春に運動会があるのは初めてで、保護者の入場人数制限を設けず4年ぶりに一般にも公開。生徒たちは大勢の観客の前で全力プレーを繰り広げ、貴重な思い出を胸に刻んだ。

従来は秋に開催していたが、熱中症対策のため今年度から春に切り替えた。スローガンは「限界突破―絆で超えろ 勝利の先へ」。運動会実行委員会(永田大翼委員長)の13人が中心となつて年度初めから企画の準備を進め、プログラムの表紙に描かれている赤・白組の応援団長のイラストは、

美術部の岡田瀬奈さん(3年)が担当した。開会式では、いずれも3年生で赤組の梶田煌生(こうめい)、白組の原田奏斗両応援団長が「スポーツマンシップにのっとり、正々堂々と戦つことを誓います」と高らかに宣誓。「赤白互礼・神中魂エール交換」で華やかにオープニングを飾つ

た。

伝統の「神中南蛮」では、応援団が法被とほちまき姿で登場し、全学年がエネルギーッシュによるこい演舞を披露。赤白対抗リレーでは、選抜メンバーが仲間の力強いエールに背中を押されながらトラックを激走した。

永田委員長(3年)は「例年より準備期間が短く大変だったが、先生のサポートのおかげで無事当日を迎えられ感謝している。『二人一人が主役』という思いで日々練習を重ねてきた成果が存分に発揮できた」と満足そうだった。

神原中以外の11校は、9月に運動会を実施する予定。